



不法投棄された現場をチェックするパト一行
＝鹿児島市の現場で

東九州自動車道(大隅
末吉財部)工事着工式
が3月に実施された同区
間の菱田川橋北(下部工)
工事の安全祈願祭が20日、
首於郡末吉町諏訪方の現
地で開かれ、発注者多
数が出席して工事の着工
を祝うと共に無事故での
早期完成を祈った。
神事では、刈り初めの
儀を甲斐殿日本道路公団
九州支社鹿児島工務事務
所長、菱田川橋北(下部工)工事の安全祈願祭が20日、首於郡末吉町諏訪方の現地で開かれ、発注者多数が出席して工事の着工を祝うと共に無事故での早期完成を祈った。神事では、刈り初めの儀を甲斐殿日本道路公団九州支社鹿児島工務事務所

大丸 鹿 工事の無事完成を

菱田川橋北(下部工) 安祈願祭



斎勤の儀を行う原田社長(上)と挨拶する甲斐所長＝末吉町諏訪方の現地

所長、敏入れの儀を大隅町建設課の上迫光俊課長と末吉町建設課の狩長泰博課長補佐、斎勤の儀を施工の大丸建設(株)の原田大蔵社長が行い、大澤隆志布志労働基準監督署長、金子明義日本道路公団九州支社鹿児島工務事務所大隅工務所長、東井上藤司鹿大丸建設(株)所長らが次々に玉串を捧げ無事故無災害を祈った。

会場を移して行われた直会では、施主を代表し甲斐所長が「高速道路の整備は災害に強く、大隅地域の活性化や緊急時の交通体系として道路整備が必要である。うち、菱田川橋北工区は志布志ま

での区間で一番長い橋であり難工事と予想される。そのような区間の施工を担当する同社には卓越した技術と機動力を発揮するとともに、竣工まで一丸となって無事故無災害をお願いしたい」と挨拶。それを受け施工者を代表して原田社長が「工事施工においては事業の意義や設計の趣旨を十分に理解し地域の方々に迷惑のないよう、無事故無災害で完成させたい」と謝辞を述べた。このあと、田上英治日本道路公団九州支社鹿児島工務事務所副所長の乾杯の音頭で祝宴となり、田代幸男鹿大丸

建設(株)副社長の三本締めで閉会した。
今回の工事は、菱田川



3人が持論を展開した講演会＝鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで

不法投棄がなされている現場も数箇所あったが、昨年不法投棄が見つかると同連合会が主体となって撤去した現場を再び訪れた際、不法投棄がなされていたことと安堵の表情をのぞかせる場面もあった。

午後からの反省会では、各委員から「作業現場や資材置き場などの管理を徹底してほしい」「引越しの際の不用物やテレビや冷蔵庫など家電製品が目についた。引き取った業者のモラルが問われているのでは」という意見が出されたほか、同行した鹿児島市環境総務課職員も「今後も引き続き、行政の立場での監視を強化する一方、撤去・改善された場所にも柵やロープを張るなどの対策を講じていきたい」と述べた。

斜木環境委員長は「昨年指摘し、撤去した場所の改善が図られており安心した。今回のパトロールで不法投棄の著しい場所をボランティア活動で撤去したい」と語った。

この講習会は、7月1日からの建築基準法一部改正施行に伴い、確認申請においてシックハウス等新たな確認検査対象に追加するなど建築物のシックハウス対策がスタートすることから、会員等への周知を図るために開催されたもの。

講習会冒頭、川上会長は「連合会が進めるC/PD制度の一環として、この講習を行うことになりました。健康や環境に配慮した住宅が求められて

測量の日記念講習会
アーチ橋は将来に可能性

測量設計業協会(福田光一会長)は20日、鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで測量の日記念講習会を開催、3人の講師が災害の教訓、測量業の将来像といった観

点から持論を展開した。講演に先立ち、福田会長が「IT化が急速に進展する中で、我々の業界も公共事業依存から他の事業への展開、拡大を図っていく必要がある」と述べた。また、牟田神宗征県土木部次長も記念講演を祝して言葉を寄せた。

講演では、鹿児島大学工学部の吉原進教授が「8・6豪雨被害から学ぶこと」と題し、甲突川5石橋を例に、耐久性などアーチ橋の技術的すばらしさを解説。「地球温暖化や河川上流域の乱開発だけを洪水の理由にしているのではない」としたうえで、廃棄物のリサイクル残滓(さんし)を利用してエコレンガによって

「アーチ橋を造ることも考えていかなければならない」と述べた。

続いて福田会長は「IT社会に向けての測量の役割」について、都市再生・防災、環境開発への提案、GPS、GISの利用による加工・メンテナンスへの事業開拓、低コストによる市民サービスの実現を挙げた。そして、今後は電子境界確定事業、地籍整備促進、国土空間データ基盤の整備などを提言すべきだとしている。また、同協会常任顧問の稲田博氏は「鹿児島の原風景を創る大規模火砕流」と題して講演した。

同講習会は、シックハウス対策のための改正建築基準法が平成15年7月1日施行されるにあたり、木造住宅のシックハウス対策の設計、施工技術者の育成を図るために国の助成を受けて実施しているもので、全国各地で開催している。

橋北(下部工)工事で総延長502m、橋梁延長183m、土工319m、切盛土工5万1900立方m、用排水工3214m、法面工1万5945

平方m、舗装工1万1802平方mなど。工期は17年3月まで。

木造住宅シックハウス対策マニュアル講習会

性能表示改正など解説

同講習会は、シックハウス対策のための改正建築基準法が平成15年7月1日施行されるにあたり、木造住宅のシックハウス対策の設計、施工技術者の育成を図るために国の助成を受けて実施しているもので、全国各地で開催している。

当日は、県土木部建築課の川上健朗技術主査が「改正建築基準法に対応したシックハウス対策」について、(株)建築システム研究所の杉田宣生代表取締役が「シックハウス対策に係る住宅性能表示制度の改正」「木造住宅の設計・施工マニュアル」について講義した。

熱心に聴講する参加者
＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

者ら約450人が参加して、改正概要や逐条解説、住宅性能表示制度の改正解説及び設計施工等について学んだ。

不法投棄の実態把握

県建設物解体業連合会 産業廃棄物パトロール

環境委員長が「不法投棄の実態を把握し、我々の手で改善できることを考えていこう」と挨拶した

今回のパトロールは吉野地区や川上地区、大迫地区、武岡地区、谷山地区などの資材置き場や目につかない山奥の山林のげけ地など10カ所ほどの現場を視察。相変わらず

不法投棄がなされている現場も数箇所あったが、昨年不法投棄が見つかると同連合会が主体となって撤去した現場を再び訪れた際、不法投棄がなされていたことと安堵の表情をのぞかせる場面もあった。

午後からの反省会では、各委員から「作業現場や資材置き場などの管理を徹底してほしい」「引越しの際の不用物やテレビや冷蔵庫など家電製品が目についた。引き取った業者のモラルが問われているのでは」という意見が出されたほか、同行した鹿児島市環境総務課職員も「今後も引き続き、行政の立場での監視を強化する一方、撤去・改善された場所にも柵やロープを張るなどの対策を講じていきたい」と述べた。

斜木環境委員長は「昨年指摘し、撤去した場所の改善が図られており安心した。今回のパトロールで不法投棄の著しい場所をボランティア活動で撤去したい」と語った。

この講習会は、7月1日からの建築基準法一部改正施行に伴い、確認申請においてシックハウス等新たな確認検査対象に追加するなど建築物のシックハウス対策がスタートすることから、会員等への周知を図るために開催されたもの。

講習会冒頭、川上会長は「連合会が進めるC/PD制度の一環として、この講習を行うことになりました。健康や環境に配慮した住宅が求められて

また、(株)建築システム研究所の杉田宣生社長は住宅性能保証制度の改正事項、鹿児島大学工学部の岩下剛助教は設計施工マニュアルについて解説を加えた。

改正建基法施行に対応

士会がシックハウス対策マニュアル講習会

県建築士会(川上道夫 特別講習「改正建築基準法」主催の県知事指定 法に対応した建築物のシ

ックハウス対策マニュアル講習会」は20日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで開かれ、約500人が参加した。

この講習会は、7月1日からの建築基準法一部改正施行に伴い、確認申請においてシックハウス等新たな確認検査対象に追加するなど建築物のシックハウス対策がスタートすることから、会員等への周知を図るために開催されたもの。

講習会冒頭、川上会長は「連合会が進めるC/PD制度の一環として、この講習を行うことになりました。健康や環境に配慮した住宅が求められて

また、(株)建築システム研究所の杉田宣生社長は住宅性能保証制度の改正事項、鹿児島大学工学部の岩下剛助教は設計施工マニュアルについて解説を加えた。

熱心に聴講する参加者
＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

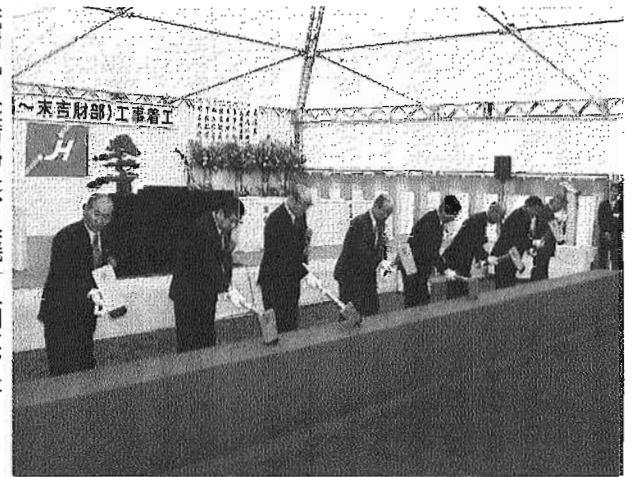
者ら約450人が参加して、改正概要や逐条解説、住宅性能表示制度の改正解説及び設計施工等について学んだ。

当日は、県土木部建築課の川上健朗技術主査が「改正建築基準法に対応したシックハウス対策」について、(株)建築システム研究所の杉田宣生代表取締役が「シックハウス対策に係る住宅性能表示制度の改正」「木造住宅の設計・施工マニュアル」について講義した。

東九州自動車道(大隅)工事着工式

鹿大丸建設で着工

東九州自動車道(大隅)「末吉財部」工事着工式が26日、曾於郡末吉町大字諏訪方で日本道路公団九州支社(伊藤容三社長)主催で行われた。式には国土交通省九州地方整備局、地元選出国會議員、県知事、関連市・町行政、建設業関係者、沿線住民ら300人が出席して工事の着工を祝つと共に早期完成を願った。

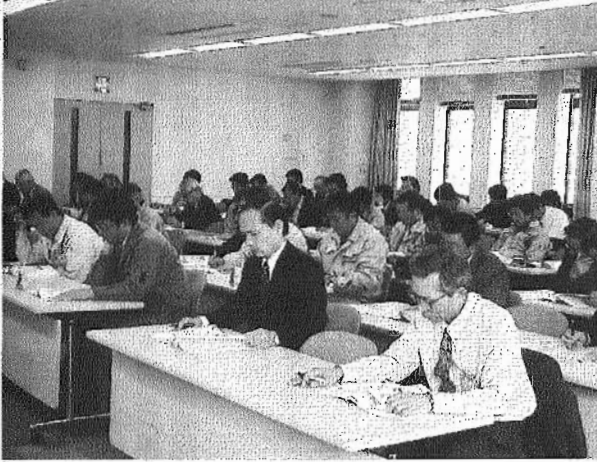


工事の安全を祈り、鍬入れ式を行う関係者
=末吉町の現地で

式では、伊藤支社長が「平成9年に施行命令を受けて進めてきた。用地買収など順調に進み、この末吉町で当地のシラスの地質の特性を把握し、施工計画に反映させるべく試験工事を実施することになった。とくに東九州自動車道は全体で3割しか開通していない。今後も全線開通に向けて協力を頂きたい」と挨拶。県知事、国會議員、渡辺

茂樹九州整備局長、県議会議長らが全線開通に向けてまい進したいと来賓挨拶した後、関係者17人による鍬入れ式を行った。今回の着工は、菱田川橋(仮称)の橋脚3基、橋台1基と工事用道路で事業費は5億1580万円、施工は鹿大丸建設(株)。

工期は17年3月2日。また当区間のシラスの特性を把握し道路計画に反映させるための試験盛土工事も実施する。



建設工事の留意事項に聴き入る参加者
=鹿児島市の県市町村自治会館で

経営者・営業所長研修会

業法・改正要綱等を学ぶ

仮称・県建設工事関連業者連絡協議会(宇都忠良代表世話人)主催、県地質調査業協会・県地質調査業協同組合後援の14年度経営者・営業所長研修会は26日、鹿児島市の県市町村自治会館で開き、県土木部から講師を招いて公共工事適正化法関連の法令、制度改正、運用基準等を学んだ。

研修会には、県内に本・支店等を有し、県工事等における設計受注者と工事発注との関連や専門

・さく井・アンカー等の事業を営む事業主・所長ら約60人が参加。冒頭、宇都代表が「建設業法等関係法令を正しく理解し、専門工事業者としてプライドを持って施工にあたり、本日の研修を生かして今後の事業活動が適正に行われることを祈念する」と挨拶した。

研修では初めに、迫正敏県砂防課長が砂防工事等における設計受注者と工事発注との関連や専門

工事のあり方について、質疑応答を交えて講義。木場信人監理用地課建設業係主幹は、資格審査要綱に関連し、工事実績の必要性や県税証明書の添付、経費の有効期限への留意などを指摘した。

また、上赤孝男技術管理課技術調整監は、主任(監理)技術者と現場代理人の違いと適正配置施工体制の整備を強調。このほか、同課職員がCALS/EC、建設リサイクル法の適正な対応、生コンクリート等の品質管理について説明した。

海岸通線東海大橋開通式

経済発展に大きく貢献



テープカットをする田畑市長(中央)ら
=串木野市の現地で

串木野市が整備を進めていた街路事業3・5・9号海岸通線が完成し26日、現地で東海(トンハ)大橋開通式が行われ、県や市、施工業者、市民ら関係者約200人が出席して完成を祝った。

同日は、田畑誠一市長らがテープカット、東英雄伊集院土木事務所長や串木野保育園園長らがくす球を割り、パトカーの先導で串木野西中学校の吹奏楽部を先頭に、親子3

代や関係者が往復して渡り初めを行った。引き続き、特設テント内に場所を移し、開かれた式典では、田畑市長が「各位の理解・協力によって大橋が開通した事は喜ばしい。西回り高速道の串木野インターに呼応した関連道路の整備を進めているが、外環状都市計画道路として漁港外港と新港および西薩工業団地を結ぶ重要

な路線が開通した事で、企業誘致にも拍車がかかる。経済発展に大きく貢献できるものと期待する」と挨拶。

このあと、田中勇造同市建設部長の事業概要説明や来賓祝辞の後、乾杯して開通を祝った。なお、橋の名称は、同市が進める東海交易圏構想に位置付けられている串木野新港の開港指定又は、国際交流の一環である日中友好交流のシンボル橋にふさわしい名称として公募により決定した。

完成を祝いテープカットする関係者
=鹿児島市の現地で

と挨拶。続いて、来賓の荒川輝雄鹿児島労働局長が祝辞を述べた後、菅会長を議長に選出して議事に入った。



15年度事業計画などを決めた臨時総会
=鹿児島市の鹿児島東急インで

労働条件の向上等を柱に

県労働基準協会臨時総会

市鹿島東急インで14年度臨時総会を開き、労働条件の向上や労働災害防止対策などを柱とする新年度事業計画などを全会一致で承認した。

総会の冒頭、菅会長が「個人消費の低調・失業率の高止まりなどデフレ傾向は継続し、中東情勢や米国の景気動向など多くの不安定要因を擁しながら推移している。このような中で、新年度は労働条件の向上や労働災害防止対策を重点に、各種事業を展開し、更に周知徹底を図ってまいりたい」と



完成を祝いテープカットする関係者
=鹿児島市の現地で

このあと、松村武久鹿児島地区老人福祉施設協議会副会長の乾杯の音頭で祝宴に入り、同施設の完成を盛大に祝った。

真心で介護事業に尽力

社会福祉法人松恵会(櫻井朝生理事長)は26日、鹿児島市西別府町に、このほど完成した特別養護老人ホーム「松恵園」増築及びグループホーム「ほのぼの」新築の落成式を開き、関係者約100人が出席して同施設の完成を祝った。

式典では、櫻井朝生理事長、森山裕典、富鶴義紀鹿児島市地域福祉課長、下村祐毅市議らによるテープカットが行われた後、会場を同施設内に移し、冒頭、櫻井理事長が「無事に落成式を迎えることができ、ひとえに皆様のご支援、ご協力のおかげだと感謝いたします」と挨拶。

て介護事業に尽力していきたい」と挨拶。次いで、来賓を代表して森山裕典議長(代読)、赤崎義則鹿児島市長(代読)、下村祐毅市議が「今後も福祉の向上、発展のために頑

張ってほしい」「介護福祉の役割を果たし、喜ばれる施設になるように」「鹿児島市の模範となる施設として発展するように願っています」とそれぞれ、設計、施工業者を代表して濱田寛之(南匠代表取締役)と渋谷栄城(松尾建設)鹿児島支店長に感謝状・記念品の贈呈が行われた。